

A. タタリノフ『レクシコン』注釈9 (Ц~Я)

江口泰生

まえがき

『レクシコン』にはクに相当する部分にкy (=ku、クと写す)やк (=k、ク[^]と写す)で表記する場合と、кvy (=kwu、クウと写す)で表記する場合の2種類がある。この2種類のクは下表のように出現する。

| кvy | | | кy ~ к | | | |
|----------------------------------|--|---|--|-----------------|-----------------------------------|---|
| 語頭 | | | 語頭 | | | 語中尾 |
| ui音 | 二拍 | 三拍以上 | 無声化 | 二拍 | 三拍以上 | |
| 12a, 11a, 16b クウイモノ (食 い物) | 2a クウラ (倉) | 23b クウマレマ シ [△] タ (曇りま した) | 6b ク [△] サイ (臭 い) | 7a クム (汲む) | 17b クジラ (鯨) | 17a シ ャ ク リ シ マ ス [△] (しゃっくりし ます) |
| 16b クウイト ゴザル (食いと う御座る) | 10a クウシ (櫛) | 11a クウレマス [△] (呉れます) | 7b ク [△] シャノ カヂェ (北の 風) | 8b クニノ (国 の) | 8b クボサマ (公 方様) | 35a チ [△] クルイ (畜類) |
| 26a クウイマ シェン (食いま せん) | 31a クウジ (口) | 4b ユ グ ウ サ (戦) | 19b ク [△] メイリ フ [△] ト (組め いり人) | 33b クズ (靴) | 19a クルマ (車) | 39b ユ ク [△] サ (戦) |
| | 4a クウギ (釘) | | 27a ク [△] モ (雲) | | 20b クスリニ ナル (薬にな る) | |
| | * 20a ク [△] フ [△] ソ (糞 くっ そ) | | 34b ク [△] サ カ リマス [△] (草刈 ります) | | 26a, 34a クロイ (黒い) | |
| | | | 22b ク [△] マノシ シ (熊) | | 25b クダサル [△] ナ (下さるな) | |
| | | | | | 39b クスリ (か ずり) | |

表で*印をした020a「каль」(糞)の場合、「къвсо」と訳されている。кとvの間にъが入るのが特徴的で「ク[△]フ[△]ソ」と転写しておく。子音文字を重ねるのは『レクシコン』では促音表記に用いられることが多い。

- ①子音+子音(同じ子音文字を並書する場合)
- ②子音+ъ+子音(同じ子音文字の間にъが入る場合)023a「аратъга」(洗った)、032a「тепъно」(鉄砲)

「ク[△]フ[△]ソ」の場合も同じで、「クッソ」という促音だったかもしれない。bc部分は促音でよいとして、к[△]в[△]の表記をどう考えるか。これが本稿の問題である。

表からк[△]в[△]とк[△]у[△]の出現条件を読み取ることは難しいが、傾向性はあるように思う。用例を見ると語中尾に出現するときは必ずк[△]あるいはк[△]である。というより、к[△]в[△]は語頭にのみ出現するとしたほうが良いかもしれない。

語頭の場合、クイと連なるとき、к[△]в[△]となることが多い。

また後続音が無声子音でクが無声化する場合はк[△]になることが多い。無声化は一部、マ行もあるが(クメイリ、クモ、クマ)、条件については江口泰生2016で述べたので、参照願いたい。

二拍の単語の場合にк[△]в[△]となりやすく、三拍以上だとк[△]у[△]になりやすいが、語の長さが主たる意味を持つかどうかは疑問である。後述の条件から考えて、むしろк[△]в[△]になる二拍語の場合、後続の母音はiが多く、к[△]у[△]になる三拍語の場合、後続音はuとかoとかが多い、ということのほが意味があるかもしれない。後続母音の開口度によって差がみられるということである。

語によっては両方で表記される場合もあり、ユクサ～ユグウサ(戦)というときは揺れている。

さて、これとよく似た現象は島根方言にもみられる。木部暢子編2016の基礎語彙集によれば、クには[k^w] [k^φu] [k^u]が出現する。表にすると以下となる。

| k ^φ u | | | k ^u | | |
|------------------|-----------------|-----|----------------|-----------|-----|
| 語頭 | | 語中尾 | 語頭 | | 語中尾 |
| 後続母音イ段音 | イ段音以外 | | 後続母音イ段音 | イ段音以外 | |
| 口 | 糞 | 黒子 | 釘 | 蜘蛛 | 奥 |
| 唇 | 葉 | | 櫛 | 竈(くど) | 六女 |
| 首 | 桑k ^w | | | 草原(くさっぱら) | 家族 |
| 茎 | 鋏k ^w | | | 雲 | 六人 |
| 鯨 | | | | 鎖 | 九人 |
| | | | | 食い物 | いくら |
| | | | | 食う | いくつ |
| | | | | | 低い |

[k^w]の具体例は「桑k^w、鋏k^w」でクワが合拗音化したものだから除外すると、語中尾ではほぼ[k^u]となる(奥、六女、家族、六人、九人、いくら、いくつ、低い。例外…黒子)。

語頭で[k^φu]になるか、[k^u]になるかは、ある程度、条件づけられていて、後続音が無声音狭母音イ・ウの場合に[k^φu]になりやすく(口、茎、糞、葉、唇。例外…首、鯨)、有声音+広母音である場合に[k^u]が多い(釘、蜘蛛、竈(くど)、雲、食い物、食う)。後続音が無声音であっても広母音の場合も[k^u]となることが多い(草原(くさっぱら)、鎖。例外…櫛)という傾向がある。

さて中本正智1976ではクがf化している琉球方言が紹介されている。たとえば「先島方言ではk音は…ウ段では…摩擦音のfに変化している」(164ページ)、「共通語のkuに対応する大浦方言はfuである」(250ページ)である。その解釈については「oとuの母音の統合によって…直前の子音が代荷する必要にせまられて、ウ段子音がfに変化した」とする。

この解釈は十分に妥当性がある。たとえば九州方言では開音アウが合音オウに接近したために、合音オウがウ段に逃げたというような現象もある。これに倣えば、母音オがウに接近してきたために、ウ段の子音がよそへ逃げることによって、オ段とウ段の弁別を保持するということは十分に妥当性がある。しかしながら、アウがオウに接近したために、オウがウ段に逃げる場合、それは全ての行で逃げている。ところがクの場合、上のように考えるとなゼクだけに子音の変化が生ずるのか、他のス、ツ、ヌ、フ、ムなどの子音はなぜ変化しなかったのかという新たな疑問を生じさせる。クだけに子音変化が生じたのだから、クに個別の事情理由が必要なのではなからうか。

『レクシコン』方言と島根方言で、クが^hkbyになることと[k^hu]になることには条件の共通性があり、kyになることと[ku]になることが共通しているように思われる。前者は語頭にしか出現せず、後続音が無声子音で狭母音のときに出現し、後者は語頭や語中尾に出現し、後続音が有声音で非狭母音のときに出現するからである。

これは母音の無声化と表裏をなす現象であるように思われる。母音の無声化の基本条件は無声子音に挟まれた狭母音であるが、なおかつ後続母音が狭母音のときには無声化は生じにくい。江口2006、江口2016参照。無声化が生じないときにクが^hkbyになったり[k^hu]になったりしているのである。『レクシコン』の^hkby表記はクの発音の際、破裂のあとに唇での摩擦があったことを示すのではなからうか。クイのときに^hkbyになりやすいこともこれを支持する。クには破裂のあとで唇での摩擦を有する場合があります、それが外国資料や方言調査で記録されたのではなからうか。

2つの方言は距離的にも遠く、直接の関係があったとは思われない。こういう共通点があるとする、古代日本語にこのような傾向があってその特徴を保持したと解釈するか、あるいは個別に似たような発展を遂げたと解釈するか、どちらかであろう。

琉球方言ではkuがfuになっている。これはオがウに接近してきたために、ウ段の子音がよそへ逃げることによって、オ段とウ段の弁別を保持しようとしたと説明されている。しかし、それができたのはクだけであった。なぜクだけなのであろうか。それは元々のクが破裂の後に唇の摩擦性を伴っていたせいではなからうか。そのためにその摩擦性が強化されたのだと考えられる。

『レクシコン』方言、島根方言、琉球方言をならべてみると、クが破裂の後に唇での摩擦を伴った時期が古くあったように思われる。

さて一見無関係のように思われるかもしれないが、日本語史におけるイとキの混同の研究史についておおよそのところを記してみる。

橋本進吉1938は「それが一般的になつたのは、或は院政時代であらうか」とした。宮嶋弘1951は「語頭の音節としてはイキが合流して一つになるのは鎌倉時代の初頭である」と年代を引き下げた。語中尾の混同と語頭の混同を区別しようとしたところが進展している。大坪併治1955で「京都大学附属図書館本蘇悉地羯羅經延喜九年点から、用キルを用イルとした例」を指摘し、逆に初出年代を大きく引きあげた。新出の訓点資料によってより古い例を指摘することが出来るというのが、当時の訓点資料研究者の立場であったと思われる。さらにヲコト点による送り仮名なので、春日政治の確認を得るなどして慎重を期しているが、語頭・語中尾の区別は反映していない。馬淵和夫1954は宮嶋弘1951を紹介し、悉曇資料から「語頭のイキの区別は鎌倉時代になってなくなった」と年代を引き下げた。宮嶋1951を紹介し、語頭・語中尾の区別を改めて主張したところが新しい。大坪併治1961は「青谿書屋本土佐日記に、ムクイ>ムクキ(報)の例が見える」とされ、イキの混同が平安時代にさかのぼるという自説を補強した。築島裕1969は大坪1955に対し、京大本蘇悉地羯羅經延喜点についてはヲコト点の例なので疑問とし、大坪1961の土佐日記の例は認めつつも、他の用例から「この期の資料では、ムクイ、マキルなど同じ語の例が数多く見られるのも注意される現象で、当初は特定の語についてのみ行はれた混用であつたことも考へられる」とし、語頭の混同は鎌倉時代に入ってからとした。特定の語彙の個別現象という蓋然性を示した点が新しい。ただしその音声・音韻的な説明はなされていない。

『レクシコン』方言、鳥根方言、琉球方言を比較対照してみると、クが破裂の後に唇での摩擦を伴った時期が古くあったように思われる。そしてそれはクイとなる場合や、クのあとに無声音+狭母音iが後接する場合に[k^hu]になることが多いことが分かった。この発音は『レクシコン』方言、鳥根方言、琉球方言に共通してみられるので、古い日本語にあった可能性がある。古代日本語のクにこのように破裂の後に摩擦を伴うような異音があったのではなかろうか。

そういう発音があったと考えると、貫之が「かいぞく(海賊)むくみせむ」とイとキを間違えて書いた理由や「報い」の場合にイをキに誤る例が多い理由がわかるように思われる。クイがあたかも合拗音のようになったのである。それはクが破裂の後に唇での摩擦を伴った時期が古くあったからである。さらに合拗音にア段、イ段、エ段、オ段が出現するのにウ段がないこと、にも関わらず合拗音表記にクが用いられることのも理由もわかるように思う。

江口泰生2006『ロシア資料による日本語研究』(和泉書院)

江口泰生2016「18世紀下北方言の母音無声化一付：A. タタリノフ『レクシコン』注釈7(C~T)一」(『文化共生学研究』15)

大坪併治1955「おぐらき考」(『訓点語と訓点資料』4)

大坪併治1961「ア・ハ・ヤ・ワ四行の混同」(風間書房『訓点語の研究』所収。のち風間書房1992著作集1『訓点

語の研究(上)』所収。引用は1992による)

木部暢子編2016『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 出雲方言調査報告書』(国立国語研究所)

築島裕1969『平安時代語新論』法政大学出版会

中本正智1976『琉球方言音韻の研究』(東京大学出版会)

橋本進吉1938『国語音韻の変遷』(初出は『国語と国文学』15巻10号。のち岩波書店1950『国語音韻の研究』橋本進吉著作集4所収)

馬淵和夫1954『平安末期の母音』(『国語』3巻2号、のち日本学術振興会1963『日本韻学史の研究 II』)所収。引用は臨川書店1960『増訂 日本韻学史の研究 II』による)

宮嶋弘1951『平安時代のハ行ワ行子音とア行母音』(『説林』3-11)

注釈(Ц～Я)

| 【Ц】 | | | | | | |
|--|------|-------------------------|----------------------|----------------------|---------------|---|
| 913 | 040b | це́нтръ | (中央) | маннага | まんなか | マンナガ(真ん中) |
| 914 | 040b | це́рковь | (教会) | тера | てら | テラ(寺) |
| 915 | 040b | це́рковй освяще́ние | (教会をお祓い・ 魂入れすること) | тера́но тамаши́ ире | てらの たまし いれ | テラノ タマシ イレ(寺の魂入れ) |
| 916 | 040b | це́рковная оде́жда | (教会の衣服[法 衣]) | тера́са кй́ри мо́ю | てらのさ きりもの | テラサ キリモノ (寺さ着る物) |
| *ロシア語は「одежда」参照。 | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | Поро́ссийски (ロシア語で) | | Пояпо́нски (日本語で) | | і лі́терати (およびその書き方) [キリル文字日本語の転写とその意味] |
| 917 | 041a | це́р'ковная посу́да | (教会の食器) | тера́но ванго́но | てらの わいこの | テラノ ワンゴノ (寺の椀子の) |
| *村山1965では「terano waigono」と写す。ワイゴである。しかしキリル文字日本語はワンゴと読める。『日本方言大辞典』では「わりこ ①椀(わん)(わんこ)」が岩手や山形などに分布するので、ワンゴだと思われる。また、語中の単独母音は鼻音の前で撥音化するので、ひらがな日本語で「わいこ」と書いてあっても、実際の発音は「ワンゴ」であったと思われる。キリル文字日本語が実際の発音を反映していると思う。 | | | | | | |
| 918 | 041a | це́нй\н/ая посу́да | (高価な食器) | чава́нь | ちやわん | チャワン(茶碗) |
| 919 | 041a | це́пь | (鎖) | кагега́не | かけかね | カゲガネ(掛け金) |
| 920 | 041a | це́ль ме́та | (目標・標的) | аде́лого | あてこと | アデドゴ(当て所) |
| 921 | 041a | ца́пля | (鷺) | цуру | つる | ツル(鶴) |
| 922 | 041a | це́на | (値段) | ада́й | あたイ | アダイ(値) |
| 923 | 041a | цыга́нйть | (〔彼は〕嘲笑す る) | вара́й ма́сь | わらいます | ワライマス°(笑い ます) |
| *ロシア語「цыганйть」参照。 | | | | | | |
| 924 | 041a | це́нйть | (〔彼は〕評価す る) | ада́й шима́сь | あたイします | アダイシマス°(値 します) |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

| | | | | | | |
|-----|------|--|------------|-----------------------|--|--------------------------------|
| 943 | 042a | чапракъ | (馬の鞍の下敷き) | цу\д/жй аде | つち あて | ツヂアデ(つじ当て) |
| | | *ロシア語「чепрак」参照。「つじ」は頂上部の意か。 | | | | |
| 944 | 042a | чеглокъ | (チコハヤブサ) | тобй | とび° | トビ(鷹) |
| 945 | 042a | черьпаи | (汲め) | камешаре | かめさしやれ | カメサシヤレ(甕さしやれ) |
| | | *ロシア語は「черпать」参照。 | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | Поросийски (ロシア語で) | | Пояпонски (日本語で) | i лйтерати (およびその書き方) [キリル文字日本語の転写とその意味] | |
| 946 | 042b | черпаль | (汲んだ) | камешагта | かめました | カメマシ°タ(甕ました) |
| 947 | 042b | чардакъ | (屋根裏部屋) | нйгай | にかい | ニガイ(二階) |
| | | *ロシア語「чардакъ」参照。 | | | | |
| 948 | 042b | чйнъ | (官位) | цигю^ | ちき°やう | チギョ(知行) |
| 949 | 042b | чйсло | (数) | цугй | つち° | ツギ(次) |
| | | *「スウジ」の語頭が破擦化したものか。類例「ショウジ→チョウジ」。 | | | | |
| 950 | 042b | чйтаю | (〔私は〕読む) | ю^мимась | よみます | ヨミマス°(読みます) |
| | | *ロシア語「читать」参照。 | | | | |
| 951 | 042b | счйталъ | (読み取った) | канъжо шмашта | かんちやうしました | カニ°ジョ[カンジョ] シマシ°タ(勘定しました) |
| | | *ロシア語「считать」参照。 | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | Поросийски (ロシア語で) | | Пояпонски (日本語で) | i лйтерати (およびその書き方) [キリル文字日本語の転写とその意味] | |
| | | 【Ш】 | | | | |
| 952 | 043a | шастивый | (幸せな) | шйя вашено вто | しや わせのひと | シヤワシエノフト(幸せの人) |
| | | *ロシア語「счастливый」参照。 | | | | |
| 953 | 043a | шеголь | (だて男・しゃれ者) | рйпъпа°жй\н/пи | りは° ;ちんひ° | リプ°バ;ジンピ(立派 神秘) |
| 954 | 043a | шетъ | (勘定) | соробанъ | そろば°ん | ソロバン(算盤) |
| | | *ロシア語「счетъ」参照。 | | | | |
| 955 | 043a | шетъчйкъ | (勘定人) | дженъ канъжо шйру вто | せ°ん かんちやうするひと | ヂェニ° カニ°ジョ(カンジョ) シル°フト(銭勘定する人) |
| | | *ロシア語「счетникъ」参照。 | | | | |
| 956 | 043a | шепчу | (〔私は〕ささやく) | шйзгаги сабйрймась | しつかに さび°ります | シズ°ガギ サビリマス°(静かに喋ります) |
| | | *ロシア語「шептать」参照。語末のギとニが通用する例は227「タキギ→タギニ」がある。 | | | | |

| | | | | | | |
|-----|------|---|--------------------|---------------------|---------|--|
| 957 | 043a | щекй | (〔両〕類) | фопеда | ほへた | フォベダ(頬つべた) |
| 958 | 043a | щекотйтъ | (〔彼は〕くすぐる) | кочюгаъсмась | こちやかすます | コチヨガス ^マ ス ^ス (こちよがします) |
| | | *ロシア語「щекотить」参照。 | | | | |
| 959 | 043a | шерьсть | (羊毛) | кей | けい | ケイ(毛) |
| | | *ロシア語は「шерст」参照。ベトロワ1962論文ではエ列音がiとeの間であったとするが、一拍語が長音として発音された例とみるべきかもしれない。「乳」を「チイ」とした例(531)、「酢」を「ス ^ス 」とした例(885)がある。 | | | | |
| 960 | 043a | щес ^т ливый | (幸せな) | шея вашено | せや わせの | シェヤワシエノ(幸せの) |
| | | *ロシア語「счастливыи」参照。 | | | | |
| 961 | 043a | шесть | (六) | рогу | ろく | ログ(六) |
| 962 | 043a | шестокъ | (ロシア式かまどの焚き口の前の小台) | камано ман | かまの まい | カマノ マイ(窓の前) |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | Поросийски (ロシア語で) | | Пояпонски (日本語で) | | i ไลท์рати (およびその書き方) [キリル文字日本語の転写とその意味] |
| 963 | 043b | шетается | (〔彼は〕毛を逆立てる) | фуруимась | ふるいます | フルイマス ^ス (震えます) |
| | | *村山1965では不明とする。ロシア語「шети́ниться」(毛を逆立てる)の関連語か。 | | | | |
| | | | | | | |
| | | 【Я】 | | | | |
| 964 | 043b | яблоко | (林檎) | рйngo | りんこ | リング(林檎) |
| 965 | 043b | яблочное древо | (林檎の木) | рйngoно ки | りんこのき | リングノ キ(林檎の木) |
| 966 | 043b | ярманга | (定期市) | агйнай шйру | あきない しる | アギナイ シル (商い する) |
| | | *ロシア語「ярманка」は旧・方言であり、「ярмарка」「ярморнка」(定期市)と等しい。 | | | | |
| 967 | 043b | якорь | (錨) | йгарй | イカリ | イガリ(錨) |
| 968 | 043b | ягоды | (いちご類) | нарймоно | なりもの | ナリモノ(成り物) |
| 969 | 043b | яйцо | (卵) | тамаго | たまこ | タマゴ(卵) |
| 970 | 043b | ячень | (大麦) | мугй | むき | ムギ(麦) |
| 971 | 043b | я | (私) | вадагушй | わたくし | ワダグシ(私) |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | Поросийски (ロシア語で) | | Пояпонски (日本語で) | | i ไลท์рати (およびその書き方) [キリル文字日本語の転写とその意味] |
| 972 | 044a | яс ^т ре`б | (大鷹) | тага | たか | タガ(鷹) |
| 973 | 044a | яблонь | (林檎の木) | рйngoно кй | りんこの き | リングノ キ(林檎の木) |
| 974 | 044a | яма | (穴) | ана | あな | アナ(穴) |

| | | | | | | |
|-----|------|--------|-----------------|----------------------|------------|---------------------|
| 975 | 044a | ямщйкъ | (郵便馬車・荷馬車などの御者) | дажи\н/горй умаг ада | たちんとり うまかた | ダジントリ ウマガダ (駄賃取り馬方) |
|-----|------|--------|-----------------|----------------------|------------|---------------------|

付記：本稿は平成29年～31年JSPS科研費基盤c-17K02774「ゴンザ・タタリノフ・レザノフのロシア資料について集大成のための文献学的研究」の支援を受けた。